

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02480

研究課題名（和文）上方文壇と地方談林俳諧文化圏との繋属関係の研究～海川・物流網を視座として～

研究課題名（英文）A Study of the Relationship Between the Kamigata Literary Circle and the Local Danrin Haikai Cultural Region: From the Perspective of the Maritime and River Distribution Network

研究代表者

森田 雅也（MORITA, Masaya）

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号：10239668

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：近世前期の経済発展は、徳川政権の安定の下、全国に急速に広がった物流網の普及とともにあった。この物流網の拠点を支えた人々は巨万の富を蓄え、何らかの形で新しい富裕層として文化形成に関わることとなる。特に顕著なのが「天下の台所」と呼ばれた大坂を中心とした上方文化圏であったが、この傾向は地方文化圏においても同様の傾向が見られ、中でも西回り航路開発は、この両者を海川水上交通によって結びつけた。

その文化形成の一側面を俳諧の流行を焦点に分析すると、地方の俳諧文化圏は洗練された上方文壇、特に西鶴を中心とした談林俳諧の指導を仰ぐことで蕉風俳諧確立以前に一流の俳壇を完成していた。その実態を本研究で解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

17世紀日本の文化は、幕府の中央集権的に政策により形成されたように見えるが、実態は地方文化圏の形成が基点となった。その下支えをしたのが、地方物流網の拠頭に君臨した人々で、彼らは元々は文学的素養はなかったものの、経済的余裕を持つとともに「俳諧」という新しい文学形式を嗜むことで古典文学を学び、文化圏形成を主導し地域全体の文化度を高めた。さらに彼らの持つ物流網は、遠く離れた優れた上方文壇と深く結びつくことを可能にし、俳人同士の交流・通信ネットワークの場となり、全国津々浦々を網羅することになった。日本文化発展の要因に地方の経済発展が寄与し、さらにそれが物流網を利用していたことには注目してもらいたい。

研究成果の概要（英文）：17century was accompanied by a rapid spread of distribution networks throughout the country. The people supporting these distribution bases quickly piled up vast wealth and soon became involved in regional culture formation as the new wealthy class. This culture formation trend was particularly prominent in the Kamigata region, a similar trend can be observed in the provincial areas, and especially the development in westward aviation and waterborne traffic contributed to the connection of these two areas.

Through analysis of the culture formation within these regions and by focusing in particular on the popularity of Haikai, it is clear that the provincial Haikai cultural region was able to establish for itself a first-class Haiku Circle, even before the advent of Matsuo Basho's Haikai style, by seeking guidance of Ihara Saikaku at the Danrin Haikai School, known as one of the more refined Kamigata Literary Circles. This study has revealed the details of this fact.

研究分野：日本近世文学

キーワード：日本文学 上方文学 西鶴 談林俳諧 江戸時代 地方物流網の発展 地方文化圏の形成 海運・川運

1. 研究開始当初の背景

報告者は、本研究に先立ち、科学研究費補助金によって、2012～2016年度の5年間、基盤研究(C)「地方談林俳諧文化圏の発展と消長～西鶴の諸国話的方法との関係から～」(課題番号 24520252)という研究課題のもと、井原西鶴を中心とした大坂談林俳壇と結ばれた以下の諸国俳諧文化圏を見出し、その実地・基本調査を行ってきた(調査中も含む・順不同)。

1. 大阪・河内衆の活躍・・・三田浄久を中心とした大和川の川運グループ
2. 大阪・豊中衆の活躍・・・水田西吟を中心とした豊中の富農層グループ
3. 奈良・大和衆の活躍・・・池西言水を中心とした奈良綿業のグループ
4. 兵庫・豊岡衆の活躍・・・豊岡藩主京極高住(駒角)を中心とした大名グループ
5. 兵庫・網干衆の活躍・・・『西鶴諸国ばなし』などの姫路を中心とした米商人のグループ
6. 和歌山・三宝院衆の活躍・・・高野山三宝院を中心とした僧侶グループ
7. 岐阜・大垣衆の活躍・・・谷木因を中心とした川運の流通グループ
8. 愛知・名古屋衆の活躍・・・坪井杜国を中心とした米商人のグループ
9. 石川・金沢衆の活躍・・・立花北枝を中心とした加賀藩都市俳諧のグループ
10. 福井・三国衆の活躍・・・廻船問屋森田家を中心とした廻船業グループ
11. 福井・小浜衆の活躍・・・『日本永代蔵』などの茶業グループ
12. 福井・敦賀衆の活躍・・・天野五郎右衛門(玄流)を中心とした廻船業グループ
13. 秋田・象潟衆の活躍・・・『奥の細道』の今野又左衛門を中心とした大庄屋グループ
14. 山形・最上衆の活躍・・・鈴木清風を中心とした尾花沢紅花のグループ
15. 山形・酒田衆の活躍・・・鐙屋等酒田三十六人衆を中心とする廻船業グループ
16. 島根・石見銀山衆の活躍・・・温泉津を中心とする廻船及び陸路の銀搬出グループ
17. 大分・日田衆の活躍・・・中村西国を中心とした九州流通業の富裕層グループ
18. 熊本・八代衆の活躍・・・西山宗因出身の地としての米商人のグループ
19. 愛媛・今治衆の活躍・・・江嶋山水を中心とした伊予八藩の武家グループ
20. 北海道・松前衆の活躍・・・蝦夷在住の近江商人を中心とした松前商人のグループ

彼らのグループは個々、独自の文化圏を形成し、文化人として遊芸を嗜む内に、都市で流行しつつあった俳諧を学び、あるものは貞門派、あるものは談林派の俳諧師と交流することで俳諧文化圏を形成していった。そのグループに君臨する人物の多くが海川・流通網の支配者層と重なることは文献資料からでも想像できるが、実際、かの地に行き、当時の海川・流通網と支配者層を調査し、現地でしか見られない郷土資料を閲覧、あるいは購入し、関係の寺社、個人、学芸員、教育委員会等に聞き込みを行うことで確信するとともに新しい発見を得た。しかし、それらは地方俳諧文化圏やそれ以前の地方文化圏が西鶴の浮世草子の舞台になっていることを実証するにとどまり、西鶴や上方文壇との「関係性」の解明にはいたらなかった。また、本来、調査計画にあげながら、東北俳壇の研究(福島、宮城、茨城、岩手)が東日本大震災の被災地となり、同じく、日田を中心とした大分、熊本等九州俳壇の調査も地震災害のため未完となってしまう、全国調査には至らなかったという中途半端な悉皆調査結果となってしまう。

2. 研究の目的

日本近世文学史において、延宝年間(1673～1681)になると、それまで俳壇の中心であっ

た貞門派に代わって、大坂の西山宗因の奇抜な俳風の談林派が盛行を極めることになる。井原西鶴・岡西惟中を中心とした大坂談林、惣本寺高政を中心とした京都談林という上方俳壇の活躍、彼らと密接な係わりを持っていた地方談林俳壇の消長についての実態研究は、元禄期に入り江戸から台頭した蕉風俳諧による衰退という現象面から観念的にのみ処理され、未だ、内発的な理由が解明されていない。本研究は、その地方談林俳諧の担い手の多くが海川・物流網を牛耳る支配者層であったことに着目し、上方文壇の中心となりつつあった、浮世草子作家西鶴などの人々とどのように文学的交渉を行い発展し、行き着いたところとして日本全国の談林派が新興の蕉門勢力に席卷されてしまったのか、その内発的な理由を様々な角度から検証することを目的とした。

3. 研究の方法

報告者は西鶴浮世草子とその周辺を主たる研究対象としてきたので、延宝期から元禄期にかけての上方文壇については、その研究を持続した。一方の地方談林俳壇の研究については、現地調査を必須条件とした。課題として掲げる地方俳諧文化圏と海川流通網との関係も実地調査を行うことで明らかになることは経験済みである[基盤研究(C)森田雅也代表「地方談林俳諧文化圏の発展と消長～西鶴の諸国話的方法との関係から～」(課題番号24520252)]したがって、研究方法は主要な俳壇グループの実地調査と公的機関での資料調査(東京を含む)であった。それらの成果を学術研究の場で研究論文、発表等を行うことで検証し、印刷物として公刊するとともに、随時、データ化し、報告者の作成した**科研専用ホームページ**(<http://saikaku48.jp/>)にUPしインターネット公開した。具体的に調査した地域は以下である。ただし、先の科研による現地調査によって資料等調査済みの箇所は除いたが、補完調査、震災等の事由で未調査な箇所は調査個所として重複している。

1. 岐阜、大垣を中心とした俳壇の現地調査。(2017.4.27)
2. 長野、飯山・善光寺を中心とした俳壇の現地調査。(2017.6.2～4)
3. 福島、那須・須賀川・福島藩を中心とした俳壇の現地調査。(2017.6.6～8)
4. 新潟、直江津・高田を中心とした俳壇の現地調査。(2017.8.11～14)
5. 鹿児島、薩摩周辺を中心とした俳壇の現地調査。(2017.11.17～19)
6. 熊本、玉名を中心とした俳壇の現地調査。(2018.5.25～27)
7. 兵庫、播磨・姫路藩を中心とした俳壇の現地調査。(2018.6.6)
8. 大阪、河内を中心とした俳壇の現地調査。(2018.6.7)
9. 大阪、堺を中心とした俳壇の現地調査。(2018.6.13)
10. 山形、山形・米沢を中心とした俳壇の現地調査。(2018.6.23～25)
11. 長野、信濃町等を中心とした俳壇の現地調査。(2018.10.19～23)
12. 名古屋、尾張藩を中心とした俳壇の現地調査。(2018.12.28～29)
13. 福井、越前大野・鯖江藩を中心とした俳壇の現地調査。(2019.5.13～15)
14. 熊本、熊本・島原を中心とした俳壇の現地調査。(2019.6.28～7.2)
15. 富山、富山・高岡・伏木を中心とした俳壇の現地調査。(2019.8.21～23)
16. 岩手、盛岡藩を中心とした俳壇の現地調査。(2019.12.6～9)
17. 青森、弘前・津軽藩を中心とした俳壇の現地調査。(2020.8.19～21)
18. 山梨、甲府を中心とした俳壇の現地調査。(2021.11.5～8)
19. 京都、山城・江文神社を中心とした俳壇の現地調査。(2021.12.17)

2020・2021年度はコロナ禍により現地調査が思うに任せず、日本海側東北談林俳諧文化

圏、太平洋側東北談林俳諧文化圏、九州南部談林俳諧文化圏、四国南部談林俳諧文化圏の各々一部現地調査が未調査のまま終わった。

そのため、この2年間は、今までの調査結果に加え、雲英末雄監修・佐藤勝明・伊藤善隆・金子俊之編『元禄時代俳人大観 全3巻』（八木書店、2012年）、今栄蔵編『貞門談林俳人大観』編（中央大学出版部、1989年）などを参考に、江戸時代の旧国名に従って、「地方俳諧文化圏」までの俳書と俳人のデータ化を中心に取り組んだところ、調査対象の一時期である貞享以降元禄期の蕉風確立(1684～1693年頃まで)の基礎データだけで、のべ約12000件近くに及び、先述のホームページに随時あげている。しかし、談林俳諧最盛期の延宝・天和期(1673～1684年頃まで)のデータ化、ホームページへの掲載は間に合わず、研究期間終了後も作業を継続する。

4. 研究成果

談林俳諧の担い手の多くは、元来が地方の裕福な旦那衆であり、彼らは江戸時代に利権を得た新興商人が多く、地方に経済基盤と生活基盤の拠点を置き、生産物を大量に集積し、川運や湖運や海運によって、大量消費地である都市部、三都を往来していた。そのツールは、河村瑞賢が開発した西廻り航路、東廻り航路であったが、この「舟」と「海」の時代の到来時期と談林俳諧が急速に発展した頃[寛文・延宝年間(1673-81)]とが重なり合うことが判明した。その三都の中でも大坂文壇の中心で談林俳諧の始祖・西山宗因と、大坂談林派の雄として君臨していた井原西鶴の門流について精査を行うことであった。さらに大坂談林の刊行した俳書の多くには、先述した地方談林のリーダーたちとの接点が見られ、それらを研究成果報告用ホームページであげた。また、それぞれの人物の経済的事跡、俳人としての文化的活動についての掲載は完成していないが、収集した新資料をもとに精査し、研究期間五年間の毎年度、西鶴忌記念講演会で口頭発表[「西鶴と地方談林俳諧の人々」(2017.9.10)、「西鶴と大坂俳壇の人々」(2018.9.9)、「西鶴は連歌師だったか?」(2019.9.8)、「西鶴と地方流通文化圏」(2020.9.13)、「西鶴と延宝期地方俳壇」(2021.9.12)]したが、学術著書として公表する準備をすすめている。

また、そのような地方談林俳壇の実態を知る上で、貴重な資料が蕉門普及活動と関係していることもわかった。その一つの証左として、地方談林俳諧の拠点を崩し、蕉風俳諧の普及を図ることが、元禄十五(1702)年の『奥の細道』刊行に先立つ芭蕉の旅の目的であるとすれば氷解するが、1700年代の蕉風俳諧の全国的展開の様相には慎重な分析が必要である。むしろ、その逆説的仮定の見地から「奥の細道」の旅の軌跡を追跡すれば、地方談林俳壇の牙城が鮮明になるのではなからうか。また、「奥の細道」の旅以前の芭蕉の旅は概ね内陸部にあった。それが「奥の細道」の旅では太平洋側に加え、北陸などの日本海側の海路沿いが多い。蕉風の雄、陸の芭蕉と談林の雄、海の西鶴。同時代、同時期におけるそのテリトリーの闘ぎ合いを追究したい。

なお、副次的に一つの研究課題も浮かび上がってきた。地方俳人が上方文壇と交流を深める際、直接的対面だけでなく、書簡つまり手紙という通信手段に頼ったはずである。その際、すでに整備されていたとは言え、高価な飛脚便を用いたであろうか。1600年代末には割安の定期便もできるが、ともすれば数千円もする郵送料は、いくら旦那芸として俳諧を嗜む大衆でも贅沢な遊びである。その点、物流網の通信ネットワークを用いれば、格安である。まさにインターネットの普及に似ている。この上方文壇と地方文化圏を結ぶ物流ネットワークについても、いくつかの事例とともに論文発表した(森田雅也単著「手紙の道。遙かな

り。～地方俳壇と物流網が織りなす書簡ネットワーク～」『文学・語学』第 223 号,2018)。副次的としたが、江戸時代の都市部文壇と地方物流網を繋ぐ俳諧文化圏のツール研究は、文学史でも、物流史でもなく、いわば、超越的領域の新たな研究として、現在の情報化社会と共通する本質性解明の端緒として、今後の研究課題を提示することになったのである。

参考文献

小葉田淳著『日本鉱山史の研究』(岩波書店,1968)、武部善人著『河内木綿史』(吉川弘文館,1981)、柚木学編『酒造りの歴史』(雄山閣,1987)、今栄蔵編『貞門談林俳人大観』編(中央大学出版部,1989年)、柚木学編『瀬戸内海水上交通史』(文献出版,1989)、児玉幸多編『日本交通史』(吉川弘文館,1992)、宗政五十緒編『江戸時代上方の地域と文学』(同朋舎出版,1992)、広山堯道編『近世日本の塩』(有山閣,1997)、林玲子編『近世の市場構造と流通』(吉川弘文館,2000)、柚木学編『近世海運の経営と歴史』(清文堂,2001)、山脇悌二郎著『事典絹と木綿の江戸時代』(吉川弘文館,2002)、石井寛治『日本流通史』(有斐閣,2003)、桜井武次郎著『俳諧史の分岐点』(和泉書院,2004)、深沢眞二著『風雅と笑い 芭蕉叢考』(清文堂,2004)、佐藤勝明著『芭蕉と京都俳壇』(八木書店,2006)、母利司朗著『俳諧史の曙』(清文堂,2008)、俳文学大辞典』(角川学芸出版,2008)、雲英末雄監修『元禄時代俳人大観』全三巻(八木書店,2011~12)、速水香織編『近世前期江戸出版文化史』(文学通信,2020)真島望著『近世の地誌と文芸 書誌、原拠、作者』(汲古書院,2021)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 森田雅也	4. 巻 19
2. 論文標題 「東アジアにおける南蛮黒船来航と外交危機 十六世紀から見る日本の近世文化形成」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東アジア比較文化研究「東アジアのネットワークと日本の近世化」』	6. 最初と最後の頁 16-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森田雅也	4. 巻 第227号
2. 論文標題 「古典文学における「物語」と「読者」 - 書写・印刷史を視座として - 」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『文学・語学』	6. 最初と最後の頁 p20-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森田雅也	4. 巻 第69巻3・4合併号
2. 論文標題 「俳諧師西鶴の軌跡 - その蠢動期の再検討を中心として - 」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『人文論究』	6. 最初と最後の頁 p47-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森田雅也	4. 巻 第1巻
2. 論文標題 「海賊と海商」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東アジア文化講座』	6. 最初と最後の頁 p299-311
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 森田雅也	4. 巻 25
2. 論文標題 井原西鶴と堺	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「フォーラム堺学」	6. 最初と最後の頁 111-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田雅也	4. 巻 1-1
2. 論文標題 Rediscovery of marine culture from the ancient Japanese literature " Nihon Eitaigura " by Saikaku- " Snapper " and " Boat racing " at a Nishinomiya-Ebisu shrine -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Ocean&Culture	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.33522/joo.2018.1.36	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 森田雅也	4. 巻 223
2. 論文標題 手紙の道。逢かなり。～地方俳壇と物流網が織りなす書簡ネットワーク～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『文学・語学』	6. 最初と最後の頁 97-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田雅也	4. 巻 69
2. 論文標題 『俳諧石車』からみる元禄三、四年の西鶴と京都俳壇	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 俳文学研究	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田雅也	4. 巻 67-2
2. 論文標題 鎖国下日本と世界に繋がる海の交易ルートー西鶴文学を視座としてー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文論究	6. 最初と最後の頁 57-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 森田雅也	4. 巻 6
2. 論文標題 鎖国下日本と世界との文化交流ー西鶴文学を視座としてー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日東學研究	6. 最初と最後の頁 57-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 森田雅也
2. 発表標題 近世期の中国輸入書と日本の言語文化
3. 学会等名 大東文化大学大学院外国語学研究科日本語文化学専攻講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森田雅也
2. 発表標題 井原西鶴と堺
3. 学会等名 堺都市政策研究所・大阪府立大学上方文化研究センター (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田雅也
2. 発表標題 古典文学における「物語」と「読者」～書写・印刷史を視座として～
3. 学会等名 平成30年度冬季全国大学国語国文学学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田雅也
2. 発表標題 古典文学(西鶴『日本永代蔵』)からの海洋文化再発見～西宮えびす神社の「鯛」と「ポートルース」～
3. 学会等名 The 5th International Conference on Ocean（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田雅也
2. 発表標題 西鶴と大坂俳壇の人々
3. 学会等名 西鶴忌実行委員会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田雅也
2. 発表標題 鎖国下日本と世界の文化交流ー西鶴文学を視座としてー
3. 学会等名 韓国・江原大学校日本研究センター（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森田雅也・Park Zeihyon
2. 発表標題 日本海洋ネットワークの要としての神戸文化
3. 学会等名 The 4rd Asia Pasific ocean and culture conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 染谷智幸、森田雅也、小峯和明、鈴木彰、水谷隆之、水口幹記、空井伸一、岡美穂子、高橋博巳、島村幸一、金英順、鄭敬珍、朴知恵、菊池仁、志賀市子、小俣喜久雄、福寛美、澤井真代、黄曉星、酒井正子、松浦史明、中島栄章、森田憲司、張龍妹、李銘敬等37名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 447
3. 書名 東アジア文化講座1『はじめに交流ありき 東アジアの文学と異文化交流』	

1. 著者名 長谷川強監修。執筆者、江本 裕・神谷勝広・倉員正江・佐伯孝弘・篠原進・杉本好伸・中嶋隆・藤原英城・飯倉洋一・石塚修・勝又基・川元ひとみ・菊池庸介・木越治・北川博子・近衛典子・佐藤悟・佐藤智子・染谷智幸・田中則雄・中村隆嗣・畑中千晶・花田富二夫・羽生紀子・速水香織・平林香織・福田安典・藤沢毅・水谷隆之・森田雅也・山本卓	4. 発行年 2017年
2. 出版社 笠間書店	5. 総ページ数 1012
3. 書名 浮世草子大事典	

1. 著者名 森田雅也監修・吉田健剛著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 関西学院大学出版会	5. 総ページ数 364
3. 書名 古川柳入門	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------